

授 業 科目名	手形・小切手法Ⅰ	※選 択	開講年次	3	単位数	2
科目区分	専門科目					
サブ タイトル	“ 法律を理解するには手形・小切手法が一番 ”	担当者	織田 恭一			
講義概要	<p>【概要】手形・小切手法は、企業社会に就職しようとする学生や、各種国家試験に挑戦しようとする学生、或いは、既に企業社会で活躍されている一般社員から取締役に至るまで、ぜひとも学んでおかなければならない重要な法律である。</p> <p>そこで本講義では、手形・小切手法の基礎的知識及び法理論の修得と、それが実際の企業社会にどのように活かされているかを学ぶことを目的とします。</p> <p>【到達目標】</p> <p>手形法の基礎知識及び法理論の修得により、企業社会で活躍できる水準及び各種国家試験に対応できる水準を目標とします。</p>					
履修条件	企業への就職を考えている者又は各種国家試験に挑戦意欲のある者					
教科書・ 参考書	<p>【教科書】 織田恭一 著「手形法・小切手法」(ビジネス教育出版社)</p> <p>【参考書】 特になし</p>					
授業回数	内容					
1	手形・小切手の役割と概要					
2	手形行為と手形理論					
3	手形の偽造・変造					
4	手形の振出と原因関係					
5	白地手形の意義と白地の不当補充					
6	手形の裏書と裏書の効力					
7	裏書の連続					
8	善意取得					
9	特殊な裏書					
10	人的抗弁の切断					
11	特殊な抗弁					
12	手形保証					
13	適法な支払呈示					
14	不適法な支払呈示					
15	支払と支払免責					
評価方法	原則として前期末試験によるが、出席状況も考慮します。					
評価基準	上記授業の内容について、よく理解・表現できた者には「A」を与える。内容についての理解や表現が不十分である者はその程度に応じて「B」または「C」とし、内容についての理解自体が一定の基準に達していない者はその程度に応じて「D」または「E」とする。					
その他	<p>真に実力をつけたい学生は、極力、出席すること。</p> <p>※Eカリキュラム（経営法コース）の学生は選択必修科目</p>					